

2011年。私たちは、  
社会を知らなすぎたことを  
学んだ。



いま、社会学を学ぶということは、どういうこと？  
竹信先生、教えてください。

今年は、未曾有の大震災などを通じて、日本社会の構造的な問題が次々と表面化した1年でした。私たちの生活がいかに危うい土台の上に成り立っているのかも、痛いほどわかってきました。

これから大切になるのは、もう「世の中そういうもんだ」ですまないこと。新聞やニュースをそのまま受け取らず、なぜ？と疑う。

社会の構造を見つめ、さらに自分のこととして考えていく。

これは、社会学という学問のアプローチそのものです。

貧困や格差の問題など、いま私たちの足もとにはたくさんの“落とし穴”があります。これからの時代を生き抜くために、社会学的な視点で社会をとらえ、考え、行動していくことは、私たちにとってますます重要になるでしょう。



現代社会学科  
教授 竹信三恵子



現代人間学部

小田急線鶴川駅から

表現学部

徒歩約15分

経済経営学部

<http://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる

和光大学